

お知らせ

◆イベントの秋です。TIFAのお店に来てください!

10月下旬から11月にかけての様々なイベントにて、TIFAもネパールグッズなどのブースを出します。ぜひお越しください。お手伝いのボランティアも募集しています。(下記イベントカレンダー参照)

◆TIFA国際子どもキャンプ2009の報告書ができました

各グループの活動報告、子どもたちの感想などを載せています。ご希望の方には実費にてお付けします。事務局にお申し込みください。

◆書き損じハガキを集めています

書き間違えた官製はがきや、残った年賀はがきなどをご寄付ください。TIFAの活動の資金として大切にさせていただきます。

◆ノートパソコンをご提供ください!

ネパールでの若者の自立支援活動の一環として、職業訓練のためのパソコン教室を2か所で開きます。98以降のノートパソコンでお使いにならないものがありましたら、ぜひご提供ください。

会員を募集しています

- 正会員(活動会員)…入会金2000円 年会費6000円(月500円)
TIFAで実際に活動を行う会員です。何かやってみてほしい方はぜひ!
- 賛助会員…年会費 一口3000円 TIFAの活動を資金面で継続的に支援していただく会員です。年3~4回のニュースレター等をお送りします。
- 寄付…金額は自由。TIFAの活動のために大切にさせていただきます。
入会方法など、くわしくはTIFA事務局にお問合せください。

イベントカレンダー

お問合せ・お申込みはTIFA事務局(Tel. 06-6840-1014)まで

<p>とよなか国際交流市民まつり 10月24日(土) 10:00~18:00 場所:とよなか国際交流センター 世界の歌やおどり、パザー、料理、お茶など</p>	<p>くらしかんまつり 10月24日(土) 10:00~15:00 場所:くらしかん 楽しみながら学べるイベントが盛りだくさん!</p>	<p>蛍池公民館まつり 11月8日(日)10:00~16:00 場所:蛍池公民館「ルシオーレ」 TIFAはネパールグッズを出店します</p>
<p>とよなか市民力(しみんりょく)フェスタ 11月8日(日)10:00~15:00 場所:桜塚公園(豊中市中桜塚) 新鮮な野菜やフリーマーケットなど、お楽しみに</p>	<p>くらしかんパザー 11月14日(土) 10:00~12:00 場所:くらしかん 食器、衣類、日用品などが沢山出ます。</p>	<p>「日本のエコロジーの先駆者・南方熊楠を知っていますか」 12月3日(木) 13:30~15:00 場所:くらしかん1F 生活情報ひろば 講師:平子義雄さん</p>
<p>サンデーパザー 毎月第3日曜 10:00~12:00 場所:グローバルとよなか 衣類・アクセサリー等の新品が出ます。 新鮮野菜や手作りお菓子などお楽しみに。</p>	<p>環境井戸端会議 毎月第3日曜 12:30~14:00 場所:グローバルとよなか 地球規模の環境問題を学び、今私たちにできることを考えましょう。</p>	<p>多文化子育てサロン 毎月第1・3木曜 10:00~12:00 場所:とよなか国際交流センター 外国人親子の交流・情報交換の場です</p>

発行: 特定非営利活動法人 国際交流の会とよなか

TIFA(国際交流の会とよなか)は、豊中市にて1985年11月に発足しました。メンバーと地域に住む外国人が協力し、言葉や文化、国籍が異なる人たちがともに生きやすい社会の実現を目指して活動しています。

事務局 〒560-0022 大阪府豊中市北桜塚 4-7-17-109
Tel/Fax: 06-6840-1014 E-mail: tifa99@nifty.ne.jp
お問合せ、お申込みは 月~金曜 09:30~17:00
ホームページ: <http://homepage1.nifty.com/tifa/>

最新のイベント情報はホームページをご覧ください



ネパールの子どもたちへの教育支援にご協力を!



TIFAネパールプロジェクトでは、ネパール出身のメンバーとともに、ネパールの貧しい子どもたちの教育支援を行っています。後援会の皆さまからの会費や寄付金は、奨学金や養育費として大切にに使わせていただきます。息の長い支援を続けるために、ご協力をよろしくお願いいたします。(詳しくは事務局にお問合せください)

TIFAネパールプロジェクト後援会

年会費: 一口5000円より
一般寄付: 随時(金額は自由です)
送り先: 郵便振替
口座番号 00950-5-140680
加入者名 TIFAネパールプロジェクト



特集

バーモント文化交流ツアー報告(2面)

初秋のアメリカ・バーモント州を訪ねました。写真とともに現地での様子をお伝えします。



TIFA国際子どもキャンプ2009

第3回目となる今年は、中国、ルーマニア、ペルー、ドイツ、グアテマラ、ベトナム、ブルガリア、アゼルバイジャン、インドネシア、タイの10カ国の出身の講師が5つのグループに分かれ、子どもたちと寝食をともにしました。外国人の先生から各国の生活や言葉・歌・踊り・遊び・料理などを学び、子どもたちにとって中身の濃い2泊3日になったことと思います。特に今回は、外国にルーツを持つ子どもたちの参加も多く、まさに「国際子どもキャンプ」と呼ぶにふさわしいキャンプになりました。子どもたち一人一人の心の中で世界への扉が開かれたことでしょう。



8月5日~7日、豊中市立青少年自然の家(わっぱる)にて小中学生を対象に実施しました。

<スケジュール>

- 1日目・みんな仲良くなろう(自己紹介、スポーツなど)
・グループ別活動(国の紹介、言葉、歌など)
- 2日目・朝のつどい、キャンプ場内のたんけん
・グループ別活動(歌やおどりを楽しもう)
・いろんな国の料理をつくって食べよう
・お国自慢大会
・きもだめし
- 3日目・オリエンテーリング
・グループ別活動(話し合い)
・片付けと掃除、終わりの式



講師のみなさん、3日間よろしくね!



いろんな国の珍しい料理にチャレンジ!



ペルーの言葉、スペイン語。覚えたかな? みんなで踊ったお国自慢大会のフィナーレ



<TIFA国際子どもキャンプは、(独)国立青少年教育振興機構「子どもゆめ基金」より助成を受けて実施しました>

エコ&多文化共生の町を訪ねて

2009.9.18 ~ 9.28



TIFA では、1999 年より 9 回にわたって米国バーモント州からの教員研修のホームステイや日本文化紹介を引き受けてきました。このたび初めてTIFAから 10 名がバーモント州を訪問し、先生方と再会し交流を深めてきました。



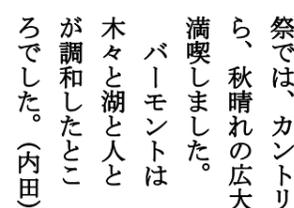
地域がより生きやすい社会になるためにはグローバルな視点が大切。今回、国際交流基金の助成を受けて、アメリカ・バーモント州へ行き、難民など多国籍から子どもを受け入れている小学校、環境を大切にしている生活、高齢者施設の状況などを見学しました。小学校は一クラスが二十人以下で、英語を母語としない子どものための教師、障害の子どものための指導者、三時以降の指導者、昼食時の担当者もいて、先生たちは自信を持って生き生きしていました。教育にお金をかけているのを感じます。美観を大切に、町にゴミがなく、環境を守るために余分なお金がかかっても実施する。環境に良い物は値段が高くても買う。建物を建てるにも環境を大切に、壊さない。：などの態度は学びたいと思いました。バーモント州から学んだことを私たちの社会にも生かしていきたいと考えています。(葛西)



た旅でした。(井藤)



エコイベント・老人ホーム見学・学校訪問：楽しかった草の根文化交流。バーモントに着いた翌日から活動開始。まずエコセンターに行きました。雑草から燃料作り、廃材から道具作り、古着で編み物、太陽電気の利用等、エコに取り組んでいる姿は日本とよく似ていました。私達もリース作りや、コインパテを体験しました。老人ホームはあまりの綺麗さに驚きました。紙芝居、着物の着付け、茶道の体験や、「もしもしカメラよ〜カメラさんよ〜」と歌いながらお手玉を回していくゲームを一緒にしました。小学校での書道体験では《山、川、月》を教えました。《夢、竜、星》も教えてと積極的で、頑張っ



て挑戦してくれました。漢字の成り立ちを説明すると「クール、クール!」と言って、漢字にとっても興味を持ってくれました。それぞれのホームステイでは、お祭りに参加した人、近所の葬式に参列した人、ステイ先の人と学校に通い日本の文化を紹介した人、観光した人、ハロウィンのカボチャを彫った人など、さまざまな貴重な体験をしてきた旅でした。(井藤)

多文化共生教育の現場を体験して。今回の旅程の中で楽しみにしていたのは、以前来日された先生方の学校を訪問し、授業に参加するというプログラムでした。最初に訪問したバーリントン市中心部の小学校では、比較的所得者層家庭の子が多く、給食や歯科治療室などの設備が充実していました。難民を含む四七ヶ国からの多文化を背負った子どもたちも共に学び、英語の話をせない子には個別の指導がされていました。低学年の国語(＝英語)のグループ授業でのこと。木槌と釘が置いてあり、「どうするの」との問いに、木槌を使って打つ道具を使うとの答え。そう、英語は生きてゆくための道具なんだよと、学習に対する強い動機づけから始めたのには感激しました。学ぶことへの内発性を喚起する指導は見事です。バーモント州は奴隷解放を表明した最初の州。この地の人々は、自分自身はとも勤勉で、他方恵まれていない人々への共感や謙虚さを持ち合わせていると感じました。初日に訪ねたシャンプレーン地方の収穫祭では、カントリーソングを遙かに聴きながら、秋晴れの広大な台地でアメリカ初体験を満喫しました。バーモントは木々と湖と人が調和したところでした。(内田)

■多文化子育てサロン ～親子でお習字

9月17日(木)とよなか国際交流センターにて会員の大矢さんからお習字を習いました。筆づかいが難しかったようですが、子どもの名前を漢字で書くなど、楽しく日本文化を体験しました。ネパールとスペインから新しい親子も加わり、ますますにぎやかになりそうです。



■豊中まつり・市民ふれあい広場

8月5・6日、豊中まつりの「市民ふれあい広場」に出店し、ネパールグッズやチヂミなどを販売しました。猛暑にもかかわらず多くのメンバーが駆けつけ、TIFAのテントは満員御礼でした。



■高校生のための日本語講座

7月21日(月)～31日(金)大阪市浪速人権文化センターにて夏休みの5日間の集中講座には、7カ国(中国、韓国、アフガニスタン、ブラジル、フィリピン、スウェーデン、タイ)にルーツのある18名の高校生が参加しました。勉強および生活のために必要な日本語を、より正しく話し、書き、自己表現することを目的とした講座は、現職の高校教師や日本語講師の方々の協力を得て無事終了。参加した生徒たちからは「楽しかった!」という感想が多く聞かれました。



冬休みのプログラムとしては、12月25日(金)に「住まいのミュージアム」見学、12月28日(月)に浪速人権文化センターにて日本語で作文を書く講座を予定しています。新しい参加者も大歓迎です!

■TIFAセミナー「パレスチナ人の現実・ナブロス難民キャンプに生まれて」

9月5日(土)とよなか国際交流センターにてお話し：マフムード・アル=マフムードさん。パレスチナ人のマフムードさんから、占領下で生きる人々の現実やご自分の生い立ちなどのお話を、会員の衛藤さんの質問に答える形でうかがった。8mの隔離壁に囲まれ、食料も教育もすべて国連に頼る難民キャンプの生活は、絶望感だけで希望はない。一方イスラエルでは「敵はパレスチナ人」と教え、子どもの頃から人を殺す訓練をしている。このような状況が60年続いているが、マフムードさんは、「平和な日本を出て今の故郷には帰りたくないが、イスラエルの人が『仲良く一緒にくらしましょう』と言えば、すぐにでも帰りたい」と話す。マフムードさんの願いが一日も早くかなうことを心から祈りたい。「知らなかったことや新しい考えをじかに聞くことができ良かった」という意見が参加者からも多く寄せられた。メディアを通してではなく、直接お話を聞く機会を今後も提供していきたい。

■国際理解教室 ～異文化に親しもう

9月16日(水)豊中市立北丘小学校にて講師：エリ・ロスティナーさん(インドネシア)セラマツト・シアン!(こんにちは)今回も元気な挨拶からスタートしました。教えることが大好きというエリさんは、優しい口調で子どもたちに母国について紹介してくださいました。インドネシアの国旗は日本と同じ赤と白。赤は勇気、白は美(Glean)を意味するそうです。イスラム教のラマダン(断食)は、恵まれない人々の置かれている境遇に共感し、人の役に立つ事を進んですることを学ぶ機会とのこと。最後に、インドネシアでも大人気のドラえもんを歌をインドネシア語で教わり、みんなで歌いました。



■アフガニスタン学習会「アフガニスタン・混乱の中でくらす人々」

10月3日(土)くらしかん イベントホールにて講師：西谷文和さん(フリージャーナリスト)西谷さんに6月に訪れたアフガニスタンの現状を映像を交えてお話いただいた。首都カブール郊外の避難民キャンプにはタリバンと米軍の戦闘に巻き込まれて逃げてきた1500人以上の避難民が住んでおり、政府や国連から何の援助もなく、近隣の住民からの寄付でかろうじて食事を取っている。日本からの巨額の支援金は必要な所に届いていない。タリバン一掃の為に普通の農民達をこんな状況に追い込めばニュータリバンになってもおかしくないという。カブールで出会ったデモでは皆口々に仕事を与えろと訴えた。米軍に協力するお金があれば自分たちに回して欲しいと日本に望む。民生支援が本当に必要とされていることがよくわかる。西谷さんは冬に向かう現地に食料と毛布を届けにまた行かれる。会場で集まった募金をお渡しした。終わりにアフガン留学生から「母国の人々を助けてくれて感謝します」と言われ、西谷さんはじめ参加者の顔がほころんだ。一日でも早く平和な生活が訪れますように。

